

## 多人数への継続講義へのアドバイスを！

ある保育士養成校の講義が、昨日から始まった。約160名の講義は、第1日目で既に精神的に疲れを感じた。単発で800人を対象に講演した経験はあるが、講演と講義は異なる。

「今はインターネットで知識は有り余る程簡単に手に入る。故に知識は教えない。その知識をいかに対象児に活かすかの力を身につけることの重要性を話す」というのが、私自身のこうした講義を引き受ける主眼である。

故に、今までの講義スタイルは、学生とのやりとりが主となる。それだけに、まだ1年生で、恐らく僕の話を理解するだけの専門知識、経験も乏しいだろうし、かといって知識を授けるだけの概論の講義は、やはり私に向いていないなあとつくづく感じながらの講義第一日目であった。

学生も多人数に安心して、いろんな授業態度。まあ、昨日は私話でざわめき授業に支障を来す場面はなく、全員がシーンと聞き耳と視線を集中する場面が、4、5回はあったので、何かは伝わっていたとは思いますが、やはり全般的にどこかいつもの私の調子が出ず。このことが、疲れを感じさせる。

いわゆるプロで現場で悩んでいる人、またプロを目指す問題意識のある人を対象だと、私の会話形式の話も理解できるようだし、何時間の集中講義であっても疲れを感じたことはなかった。必修科目であり、しかも多人数の反応は、いつもと違って異なる。

そこで、アドバイスをお願いしたい。「教育活動とは、指導者のもてる知識と技術を対象者に合わせる工夫をしながらの、対象者とのやりとりこそにある」と日頃話している私としては、何とか私が疲れを感じないように学生とやりとりする工夫をしなくてはならない。ビデオ等を利用することは、もちろん準備はしているが。

こうした多人数相手の継続講義の進め方について経験がないだけに、ぜひ何かヒントをいただきたい。

それにしても、こうした多人数の学生を対象に、階段教室で日々講義をしている大学教官の精神力に、驚異を感じる。

(2002年09月28日記)